

天草市
アンケート調査結果
抜粋版

目 次

I 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 各調査の概要.....	1
3. 結果の見方.....	2
II 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	3
1. 運動器.....	3
2. 転倒	4
3. 閉じこもり	5
4. 低栄養	6
5. 口腔機能	7
6. 認知機能	8
7. うつ.....	9
8. IADL	10
9. 日常生活圏域毎の各種判定結果.....	11
III 在宅介護実態調査.....	17
1. 介護の状況	17
2. 介護のための離職	20
3. 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス	21
4. 施設等検討の状況	22
5. 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護.....	23
IV 介護サービス事業所等実態調査	24
1. 提供サービスの種類.....	24
2. 事業所運営の課題	25
3. 人材確保の状況	26
4. 人材定着のための取り組み.....	28
5. 外国籍労働者について	29
6. 介護分野における生産性向上の取り組み.....	30

I 調査の概要

1. 調査の目的

介護保険法に基づく、高齢者に関する施策及び介護保険制度の円滑な運営などを網羅した「高齢者保健福祉計画」と「介護保険事業計画」（計画期間：令和9年度から令和11年度）の策定にあたり、既存データでは把握困難な高齢者の実態や意識・意向等を調査・分析するために「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」「在宅介護実態調査」「介護サービス事業所等実態調査」の3種類のアンケート調査を実施した。

2. 各調査の概要

	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	在宅介護実態調査	介護サービス事業所等実態調査
調査目的	日常生活圏域ごとに、地域の抱える課題の特定（地域診断）に資することなどを目的として実施	「高齢者等の適切な在宅生活の継続」と「家族等介護者の就労継続」の実現に向けた介護サービスの在り方を検討することを目的として実施	介護サービス事業所の人材の確保状況や現状等を把握することを目的として実施
調査期間	令和7年11月1日 ～ 令和7年12月19日	令和7年10月1日 ～ 令和7年1月20日	令和7年12月3日 ～ 令和8年1月6日
調査対象者	天草市在住の要介護認定を受けていない65歳以上の方	在宅で生活をしている要支援・要介護認定を受けている方のうち、更新申請・区分変更申請に伴う認定調査を受ける（受けた）方	天草市の介護保険被保険者に対する介護保険サービスを提供されている事業所
調査方法	郵送配布・郵送回収	認定調査員によるヒアリング	オンラインアンケート
調査数	5,000 人	-	227件
有効回答数	3,435 票	420 票	212 件
有効回答率	68.7%	-	93.4%

3. 結果の見方

- 回答率は百分比の小数点 2 位を四捨五入しているので、合計が 1 0 0 %にならない場合がある。
- 2 つ以上の回答を要する（複数回答）質問の場合、その回答比率の合計は原則として 1 0 0 %を超える。
- 数表、図表、文中に示す n は、回答率算出上の基数（標本数）である。
- n = 該当数（その質問を回答しなくてよい人を除いた数）
- 数表、図表に示す選択肢はスペースの関係で文言を短縮して表記している場合がある。

Ⅱ 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査

回答結果を基に「運動」「転倒」「閉じこもり」「低栄養」「口腔機能」「認知機能」「うつ」「IADL」のリスク判定を行った。

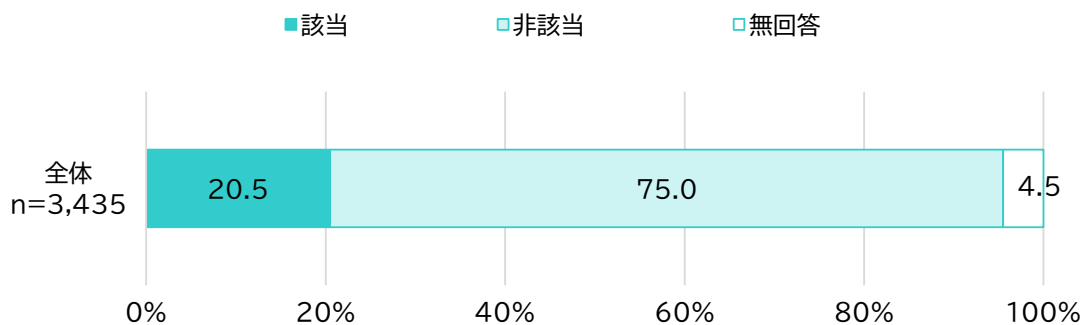
1. 運動器

以下の設問のうち3問以上、該当する選択肢が回答された場合に、運動器機能が低下していると判定している。

<判定方法>

設問番号		内容	該当する選択肢
問2	(1)	階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか	3. できない
問2	(2)	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか	3. できない
問2	(3)	15分位続けて歩いているか	3. できない
問2	(4)	過去1年間に転んだ経験があるか	1. 何度もある 2. 1度ある
問2	(5)	転倒に対する不安は大きい	1. とても不安である 2. やや不安である

運動器機能の低下に該当している人の割合は、20.5%となっている。



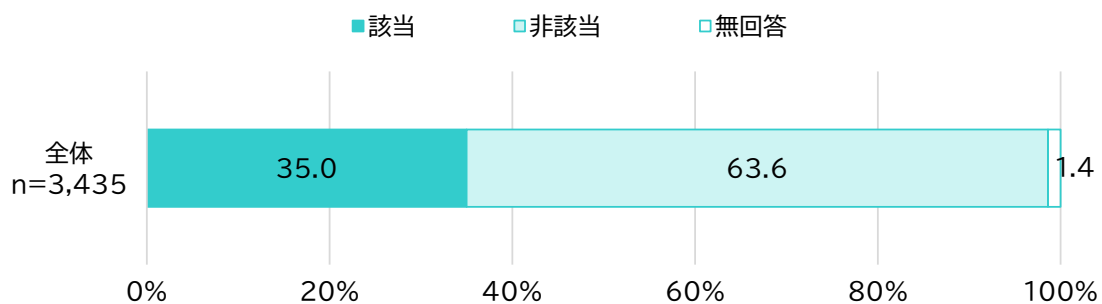
2. 転倒

以下の設問で、該当する選択肢が回答された場合に、転倒リスクがあると判定している。

<判定方法>

設問番号		内容	該当する選択肢
問2	(4)	過去1年間に転んだ経験があるか	1. 何度もある 2. 1度ある

転倒リスクのある高齢者に該当している人の割合は、35.0%となっている。



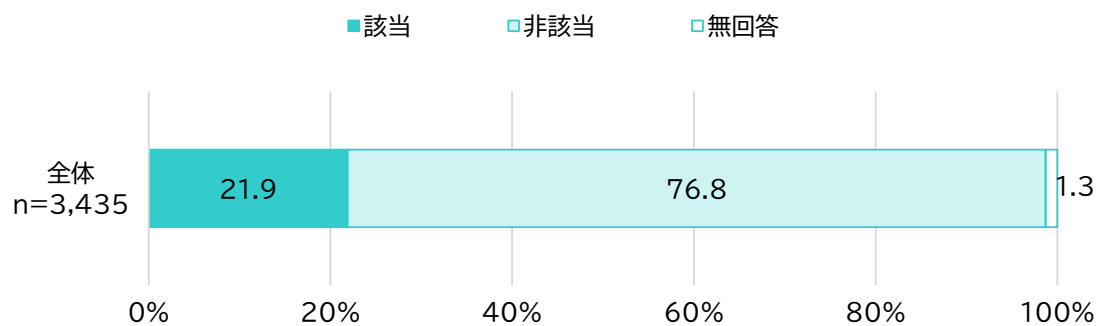
3. 閉じこもり

以下の設問で、該当する選択肢が回答された場合に、閉じこもり傾向にあると判定している。

<判定方法>

設問番号		内容	該当する選択肢
問2	(6)	週に1回以上は外出しているか	1. ほとんど外出しない 2. 週1回

閉じこもり傾向に該当している人の割合は、21.9%となっている。



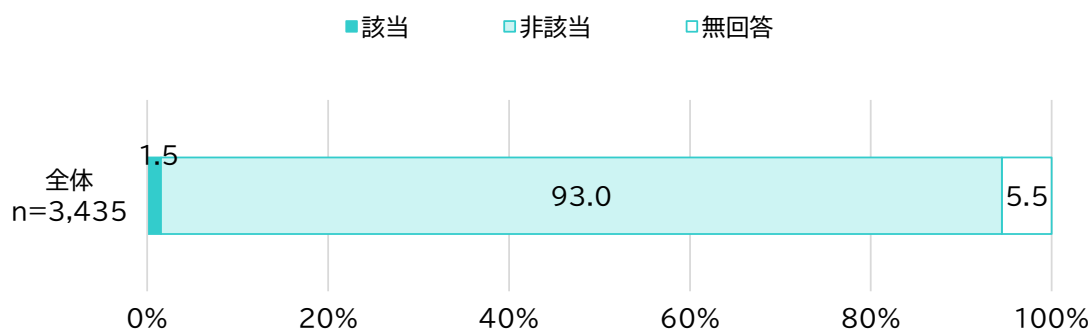
4. 低栄養

身長・体重から算出されるBMI（体重（kg）÷ {身長（m）×身長（m）}）が18.5以下で、問3（7）の設問において、該当する選択肢が回答された場合に、低栄養状態にあると判定している。

<判定方法>

設問番号		内容	該当する選択肢
問3	(1)	身長・体重	() cm () kg
問3	(7)	6か月間で2～3kg以上の体重減少があったか	1. はい

低栄養状態に該当している人の割合は、1.5%となっている。



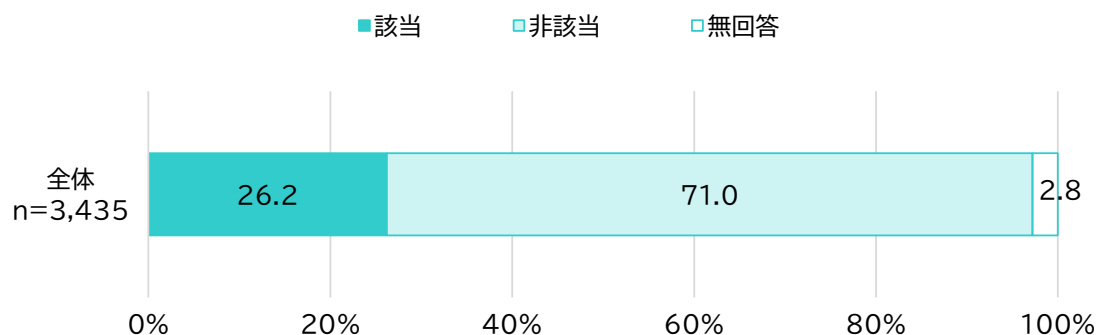
5. 口腔機能

以下の設問のうち2問以上、該当する選択肢が回答された場合に、口腔機能が低下していると判定している。

<判定方法>

設問番号		内容	該当する選択肢
問3	(2)	半年前に比べて固いものが食べにくくなったか	1. はい
問3	(3)	お茶や汁物等でむせることがあるか	1. はい
問3	(4)	口の渇きが気になるか	1. はい

口腔機能の低下に該当している人の割合は、26.2%となっている。



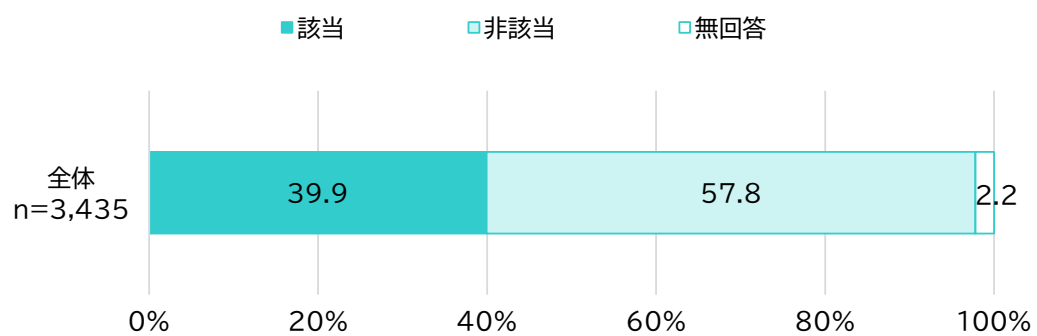
6. 認知機能

以下の設問で、該当する選択肢が回答された場合に、認知機能が低下していると判定している。

<判定方法>

設問番号		内容	該当する選択肢
問4	(1)	物忘れが多いと感じるか	1. はい

認知機能の低下に該当している人の割合は、39.9%となっている。



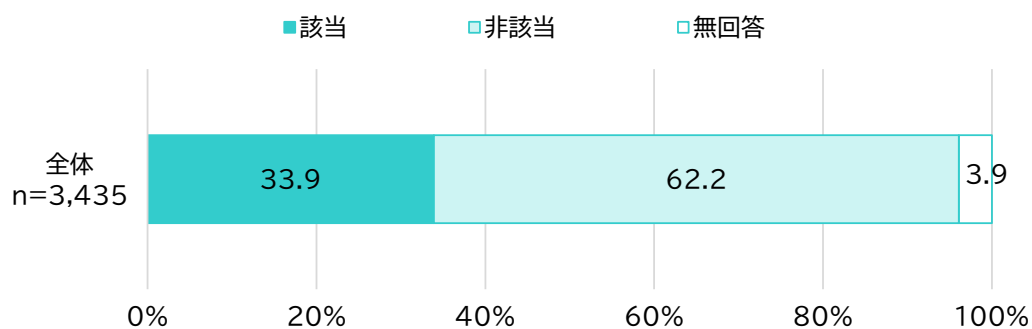
7.うつ

以下の設問でいずれか1問でも、該当する選択肢が回答された場合に、うつ傾向にあると判定している。

<判定方法>

設問番号	内容	該当する選択肢
問8	(3) ゆうつな気持ちになったりすることがある	1. はい
問8	(4) 心から楽しめない感じがよくある	1. はい

うつ傾向ありに該当している人の割合は、33.9%となっている。



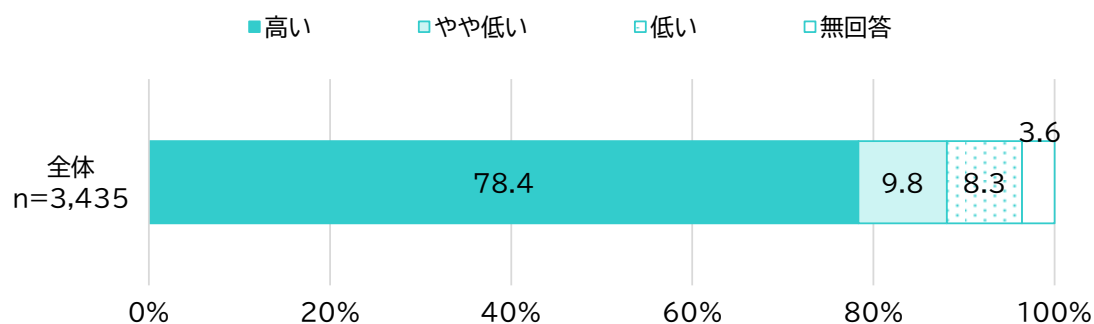
8. IADL

以下の設問で、該当する選択肢が5つ回答された場合に、IADLが「高い」と判定し、4つ回答された場合は「やや低い」、3つ以下の場合は「低い」と判定している。

<判定方法>

設問番号		内容	該当する選択肢
問4	(4)	バスや電車を使って一人で外出しているか	「1.できるし、している」 または 「2.できるけど、していない」
問4	(5)	自分で食品・日用品の買い物をしているか	
問4	(6)	自分で食事の用意をしているか	
問4	(7)	自分で請求書の支払いをしているか	
問4	(8)	自分で預貯金のおし入れをしているか	

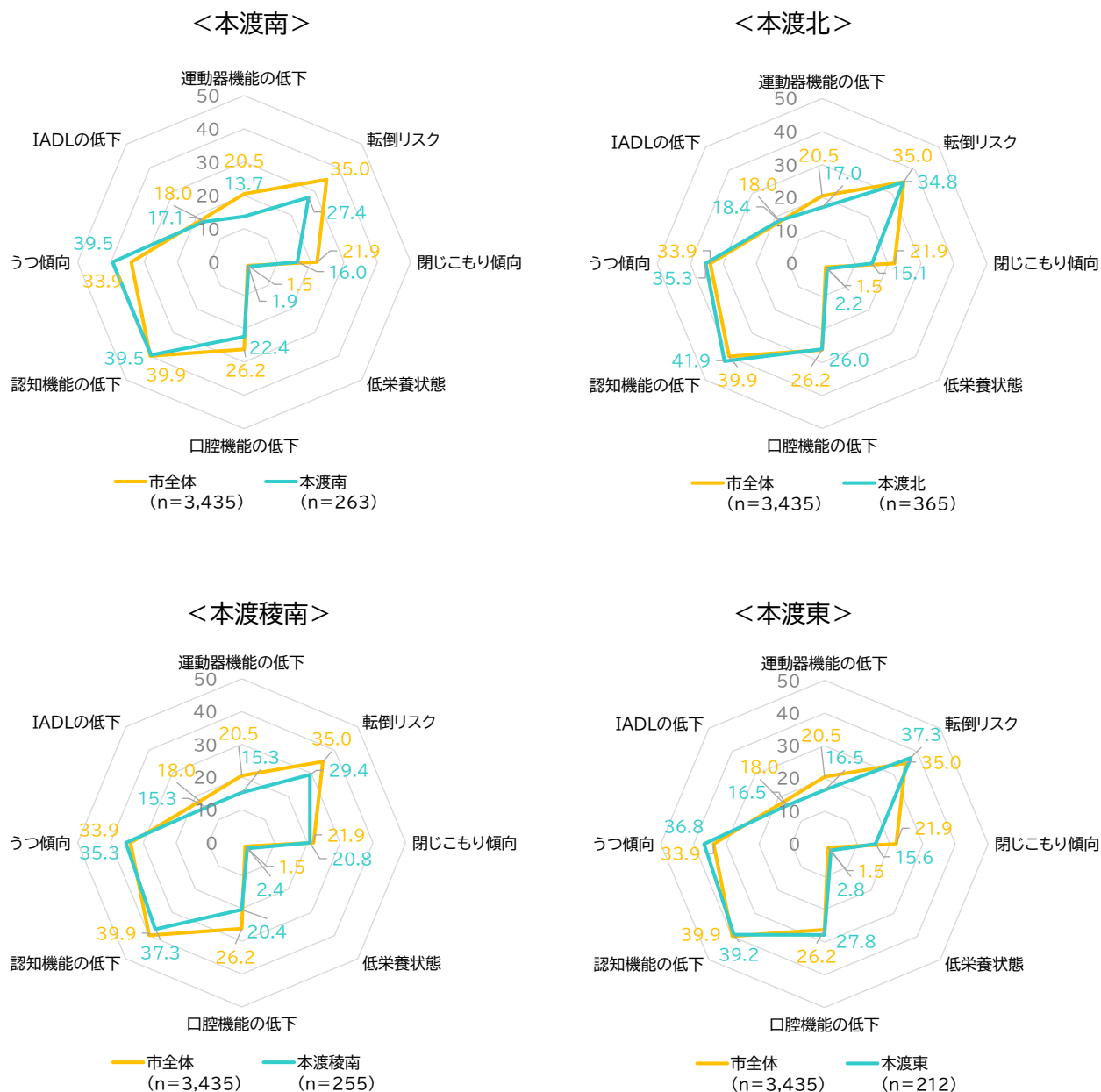
IADL（手段的自立度）において「低い：0～3点」に該当している人の割合は、8.3％となっている。



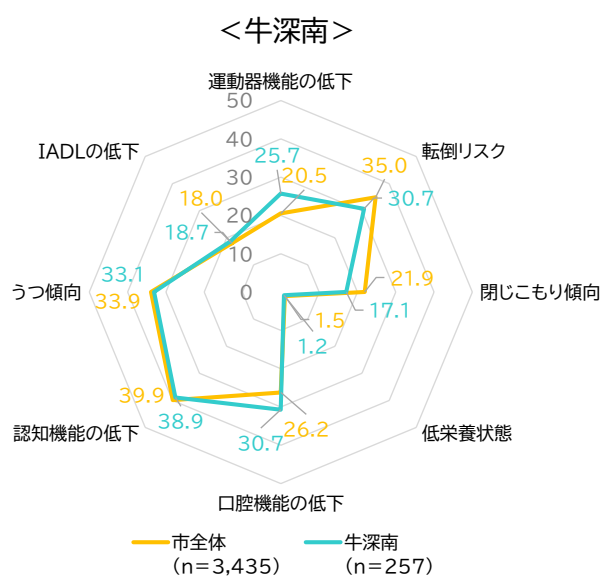
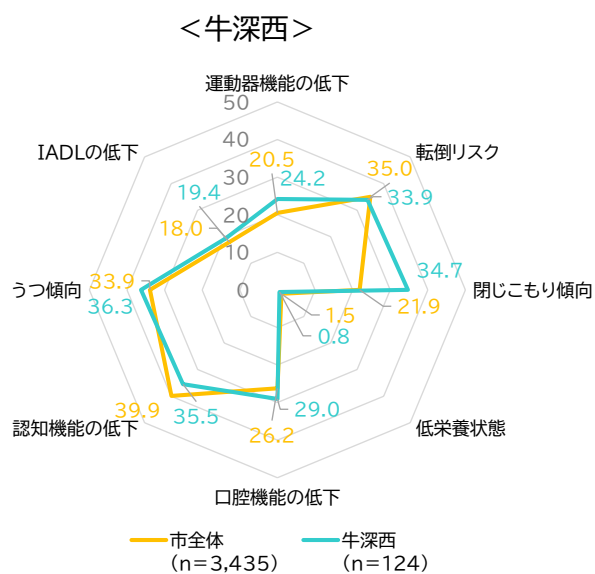
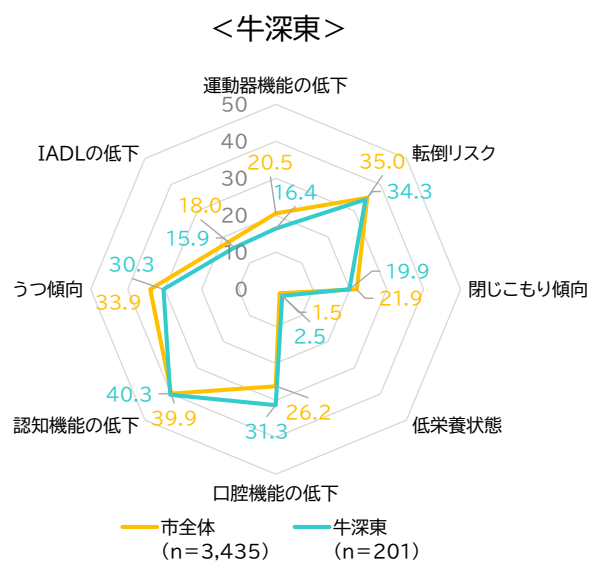
9. 日常生活圏域毎の各種判定結果

8つのリスク状況（リスクあり）を市全体の結果と日常生活圏域毎に比較を行った。

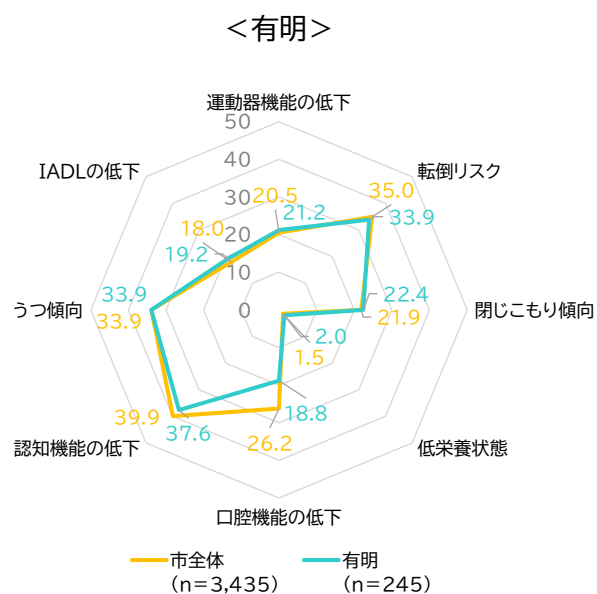
① 本渡エリア（本渡南、本渡北、本渡稜南、本渡東）



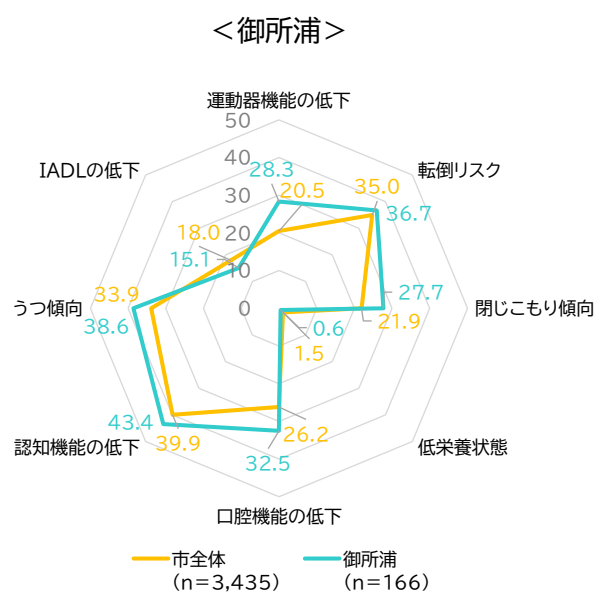
② 牛深エリア（牛深東、牛深西、牛深南）



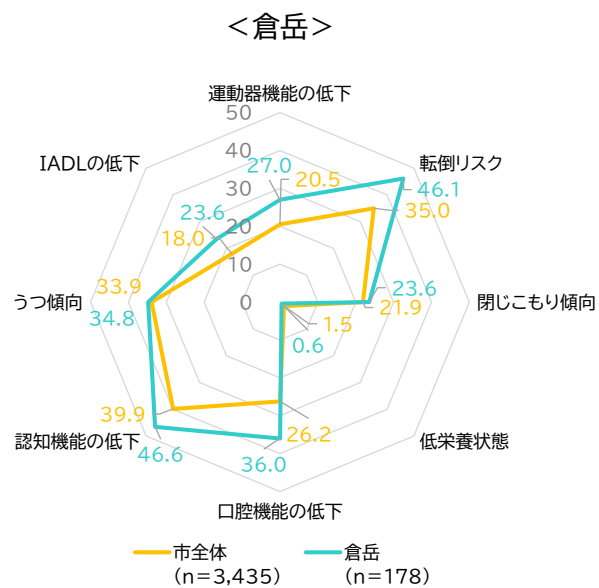
③ 有明エリア



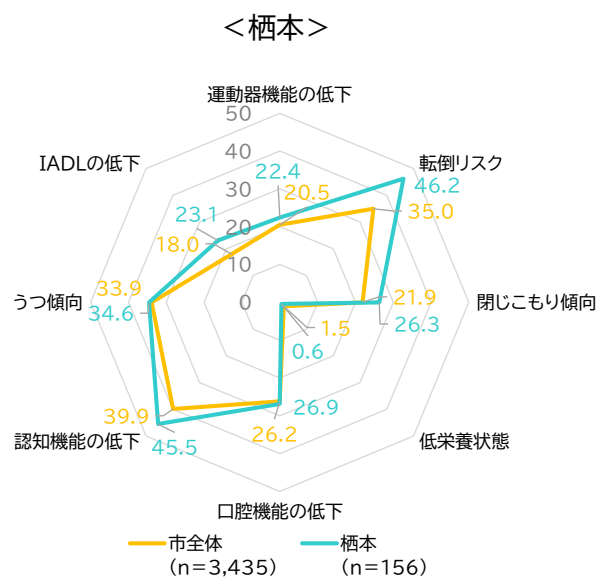
④ 御所浦エリア



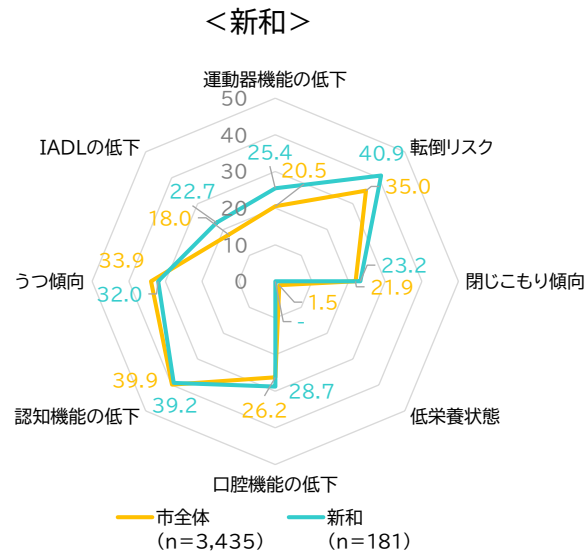
⑤ 倉岳エリア



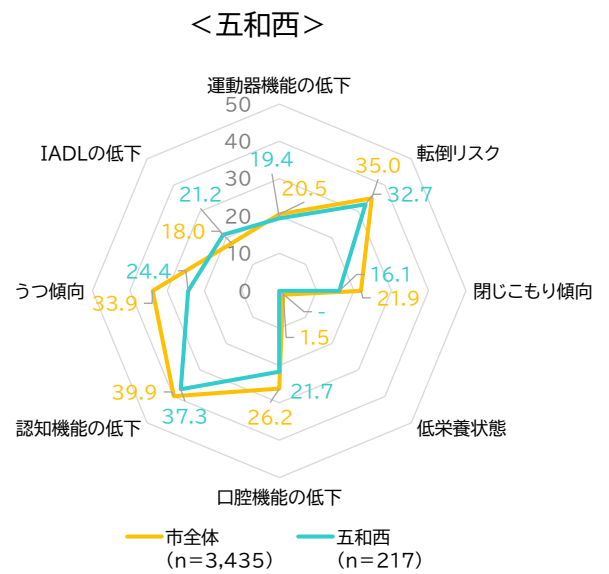
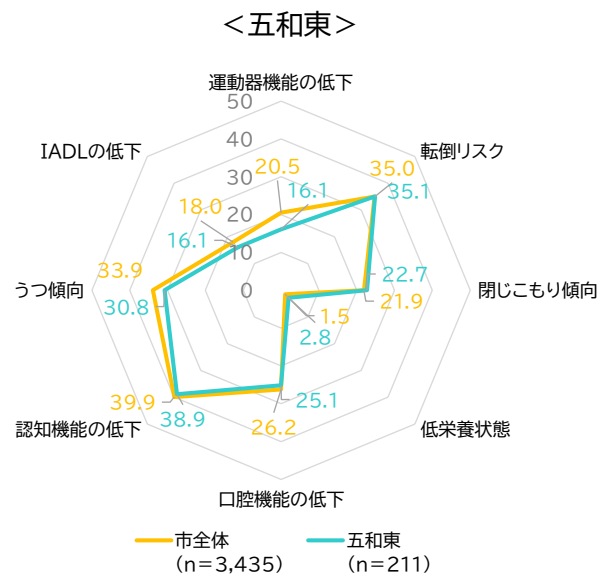
⑥ 栖本エリア



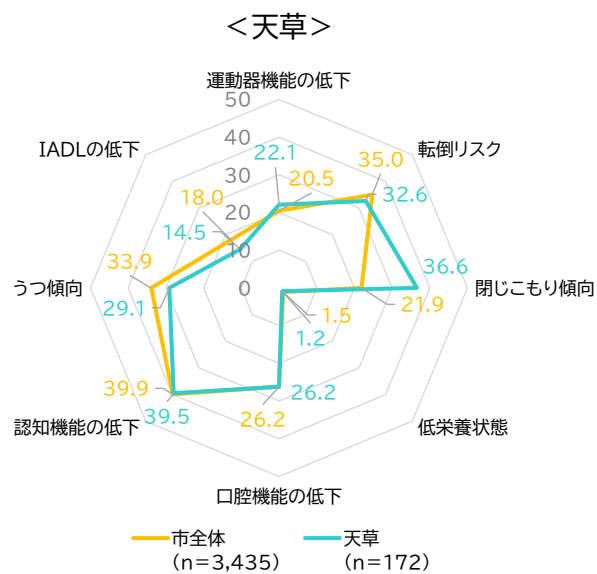
⑦ 新和エリア



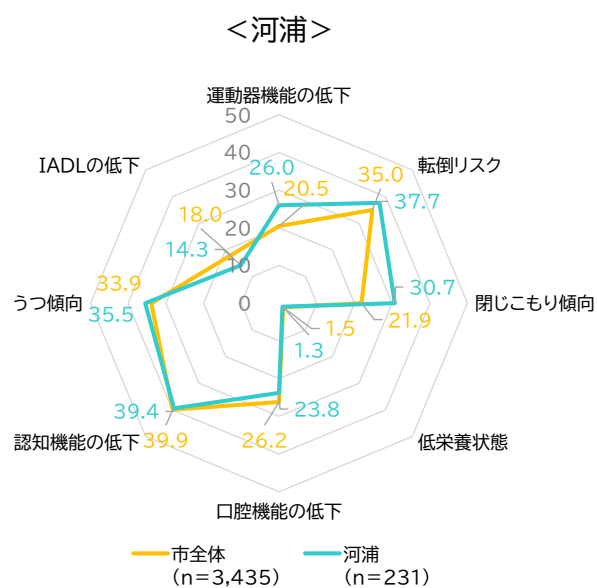
⑧ 五和エリア（五和東、五和西）



⑨ 天草エリア



⑩ 河浦エリア



Ⅲ 在宅介護実態調査

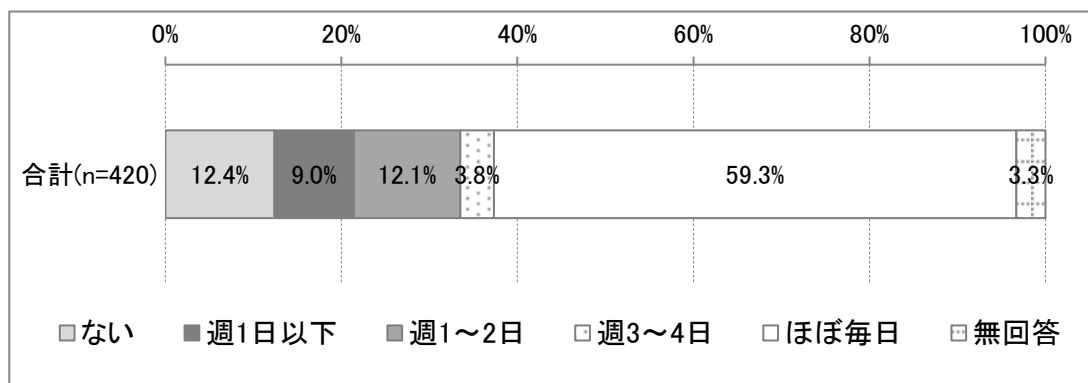
1. 介護の状況

① 家族等による介護の頻度

「ほぼ毎日」の割合が最も高く 59.3%となっている。次いで、「ない（12.4%）」、「週 1～2 日（12.1%）」となっている。

【設問内容】

問2 ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか(同居していない子どもや親族等からの介護を含む)(1つを選択)

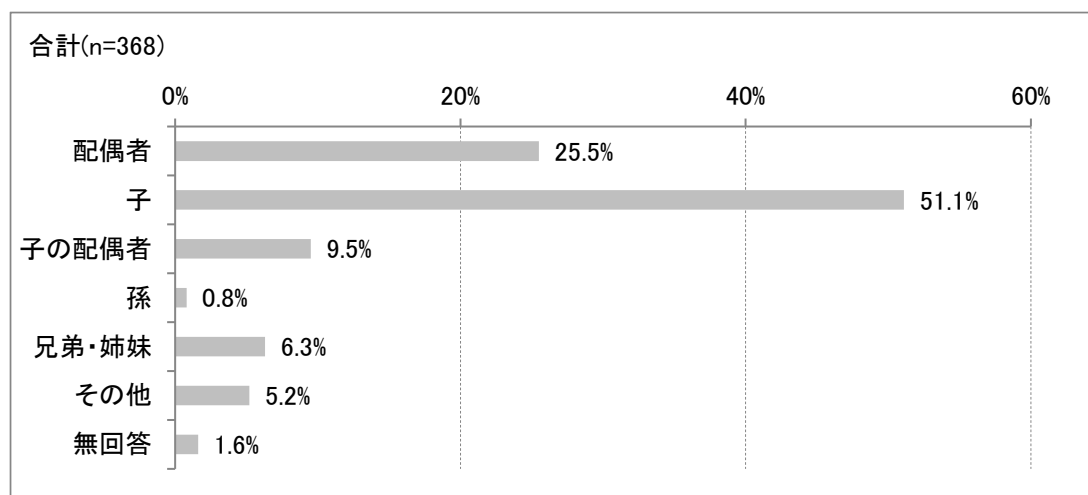


② 主な介護者の本人との関係

「子」の割合が最も高く 51.1%となっている。次いで、「配偶者(25.5%)」、「子の配偶者(9.5%)」となっている。

【設問内容】

問3 主な介護者の方は、どなたですか(1つを選択)

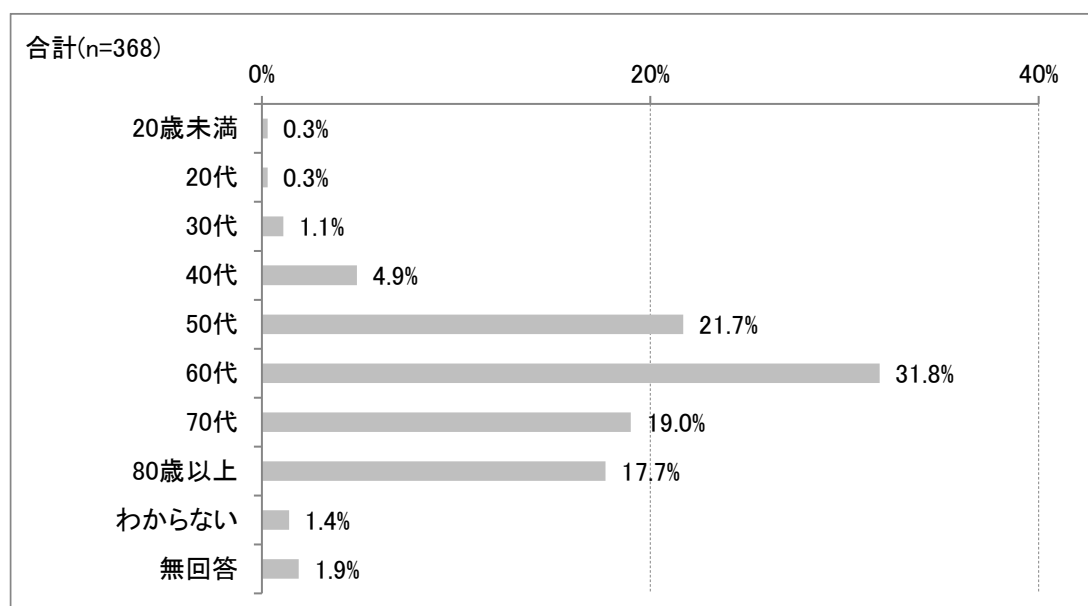


③ 主な介護者の年齢

「60代」の割合が最も高く 31.8%となっている。次いで、「50代(21.7%)」、「70代(19.0%)」となっている。

【設問内容】

問5 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください(1つを選択)

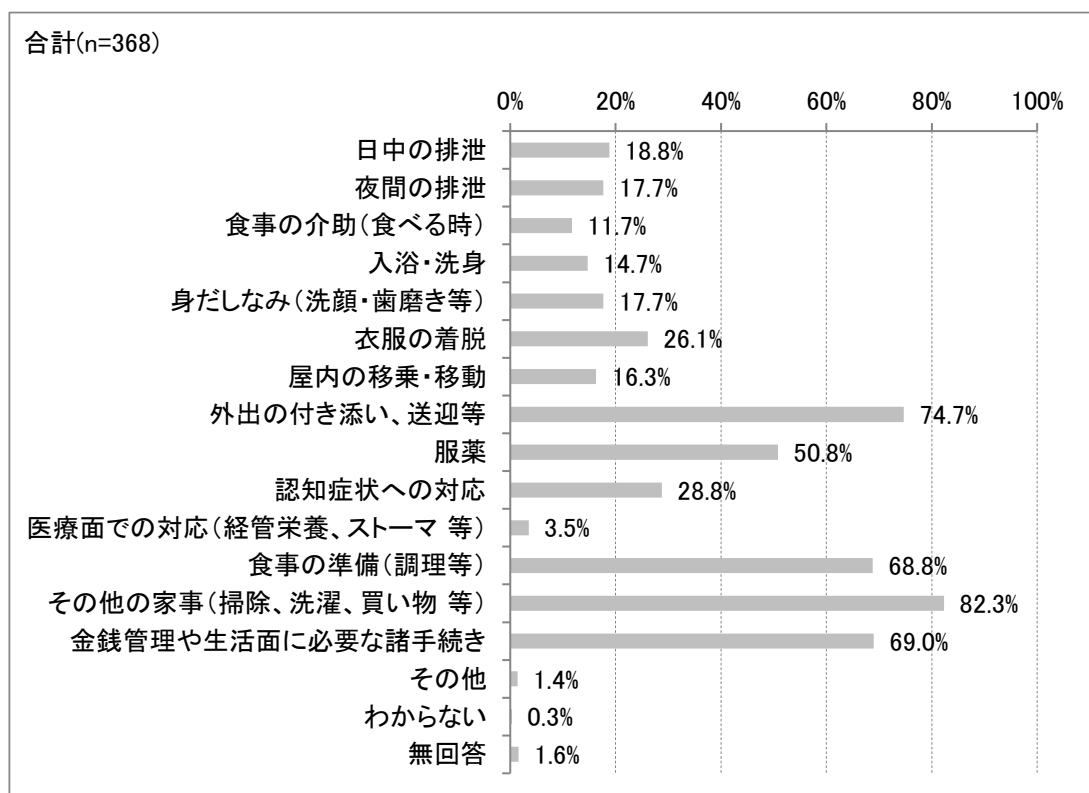


④ 主な介護者が行っている介護

「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」の割合が最も高く 82.3%となっている。次いで、「外出の付き添い、送迎等（74.7%）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き（69.0%）」となっている。

【設問内容】

問6 現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください(複数選択可)

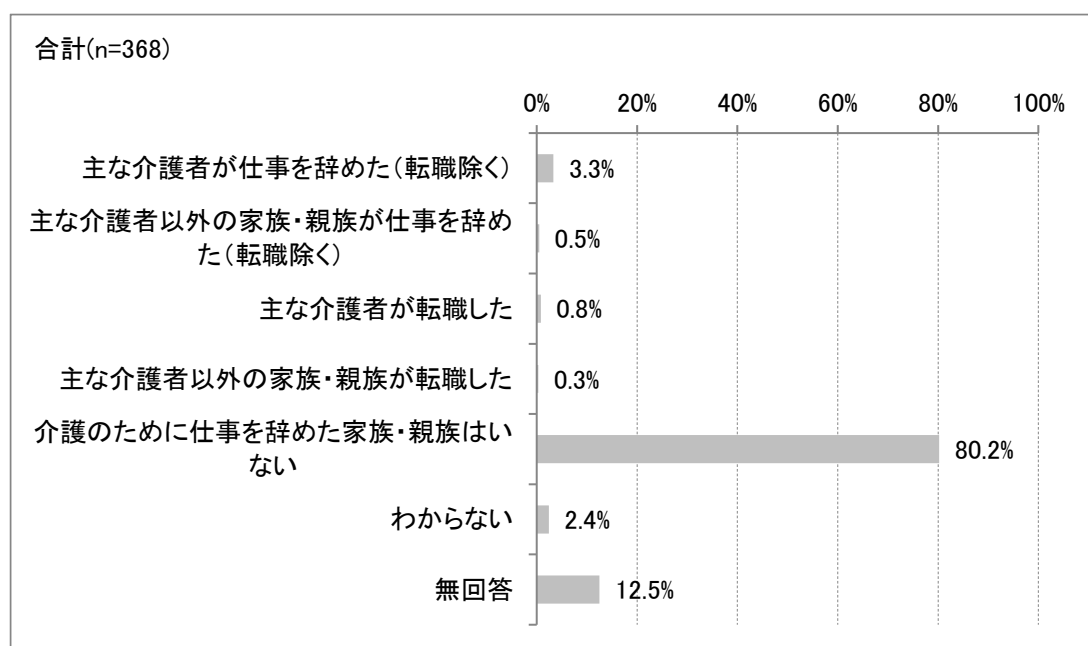


2. 介護のための離職

「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」の割合が最も高く 80.2%となっている。次いで、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）（3.3%）」、「わからない（2.4%）」となっている。

【設問内容】

問7 ご家族やご親族の中で、ご本人（認定調査対象者）の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません）（複数選択可）

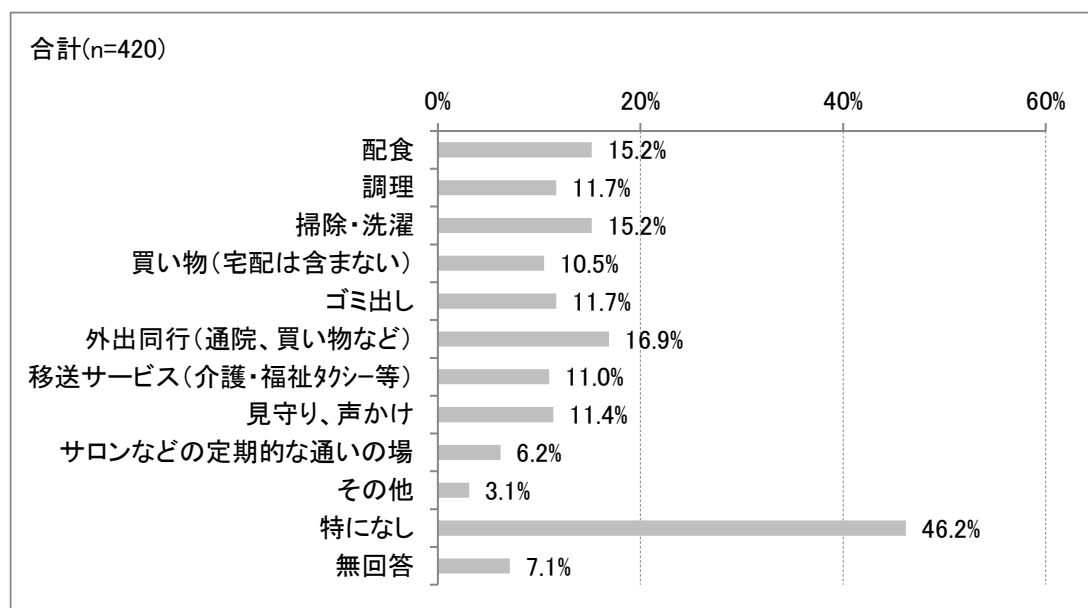


3. 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス

「特になし」の割合が最も高く 46.2%となっている。次いで、「外出同行（通院、買い物など）（16.9%）」、「配食（15.2%）」、「掃除・洗濯（15.2%）」となっている。

【設問内容】

問9 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む)について、ご回答ください(複数選択可)※介護保険サービス、介護保険以外の支援・サービスともに含みます。



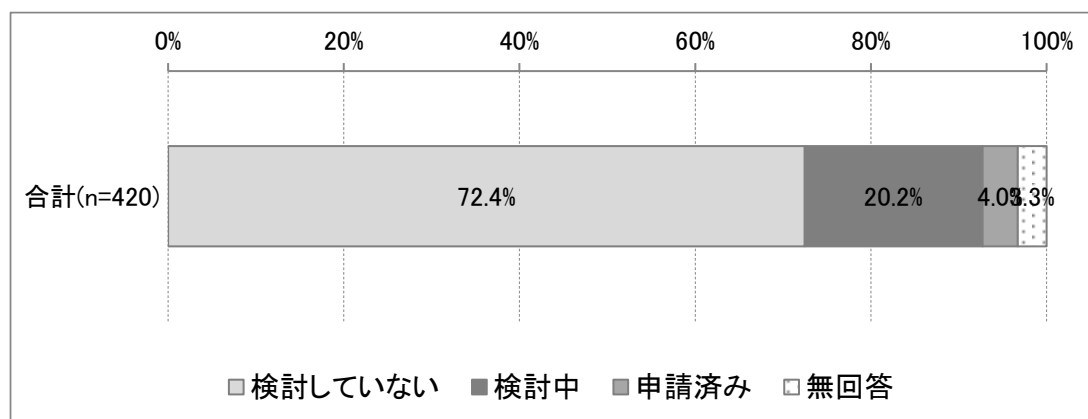
4. 施設等検討の状況

「検討していない」の割合が最も高く 72.4%となっている。次いで、「検討中（20.2%）」、「申請済み（4.0%）」となっている。

【設問内容】

問 10 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください(1つを選択)

※「施設等」とは、特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設、特定施設(有料老人ホーム等)、グループホーム、地域密着型特定施設、地域密着型特別養護老人ホームを指します。

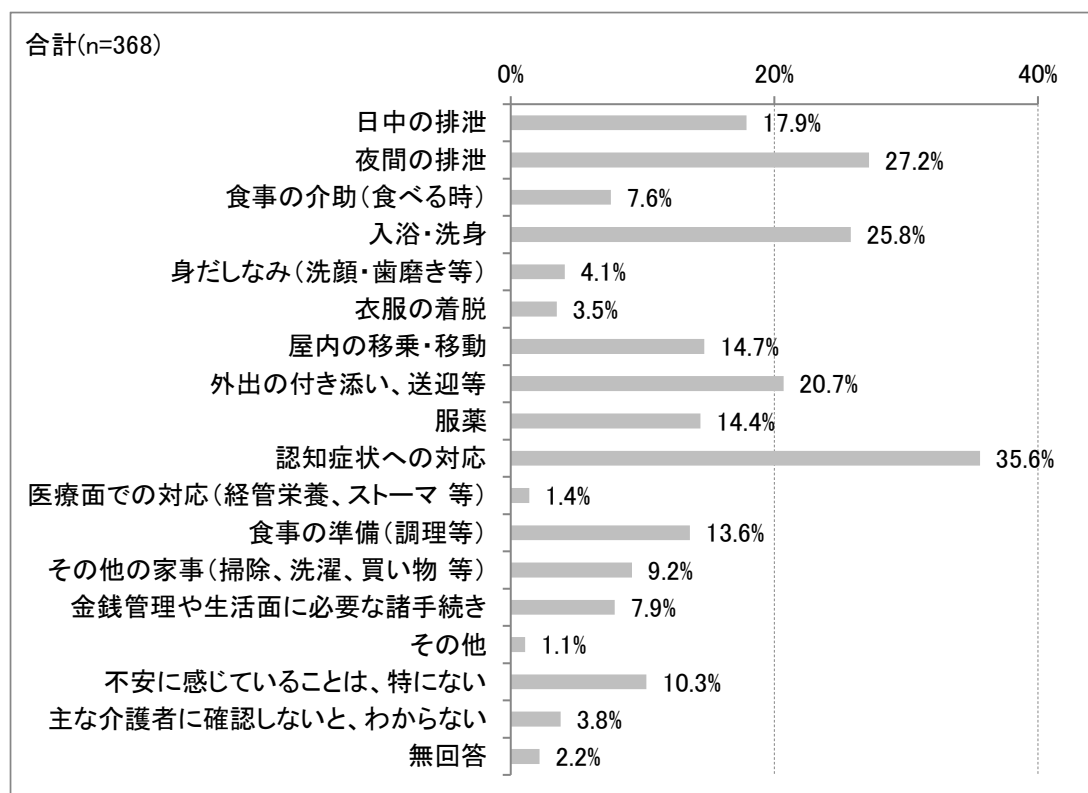


5. 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護

「認知症状への対応」の割合が最も高く 35.6%となっている。次いで、「夜間の排泄（27.2%）」、「入浴・洗身（25.8%）」となっている。

【設問内容】

問5 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください(現状で行っているか否かは問いません)(3つまで選択可)



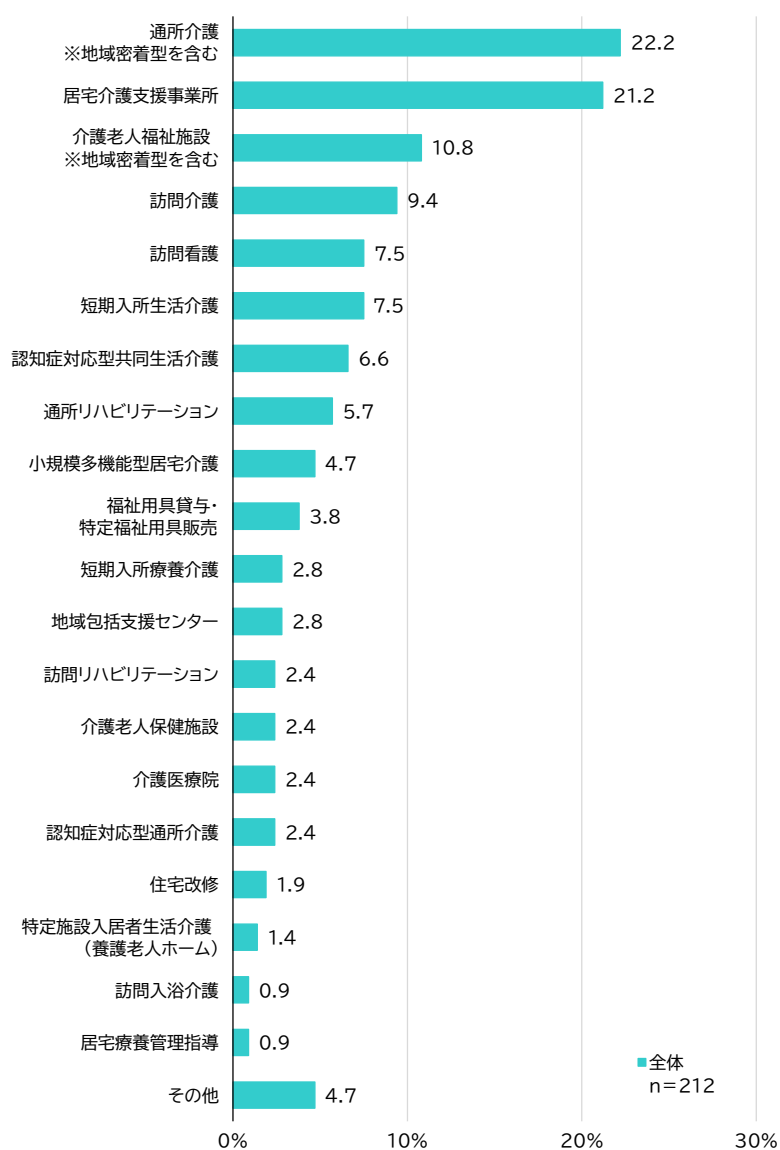
IV 介護サービス事業所等実態調査

1. 提供サービスの種類

「通所介護※地域密着型を含む」が22.2%、「居宅介護支援事業所」が21.2%、「介護老人福祉施設※地域密着型を含む」が10.8%となっている。

【設問内容】

問1 貴事業所で提供しているサービス(予防給付含む)は何ですか。(複数回答)

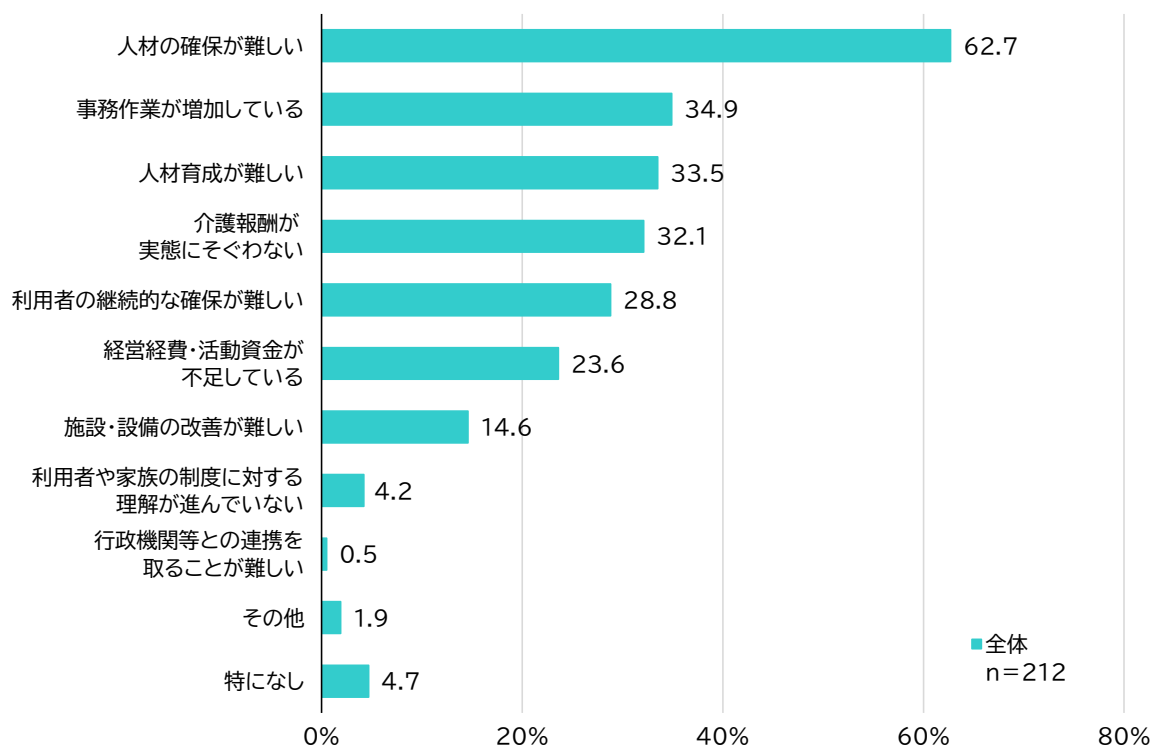


2. 事業所運営の課題

「人材の確保が難しい」が62.7%と最も高く、次いで「事務作業が増加している」が34.9%、「人材育成が難しい」が33.5%の順となっている。

【設問内容】

問5 貴事業所の運営に関して現在、困難を感じることは何ですか。(3つまで)



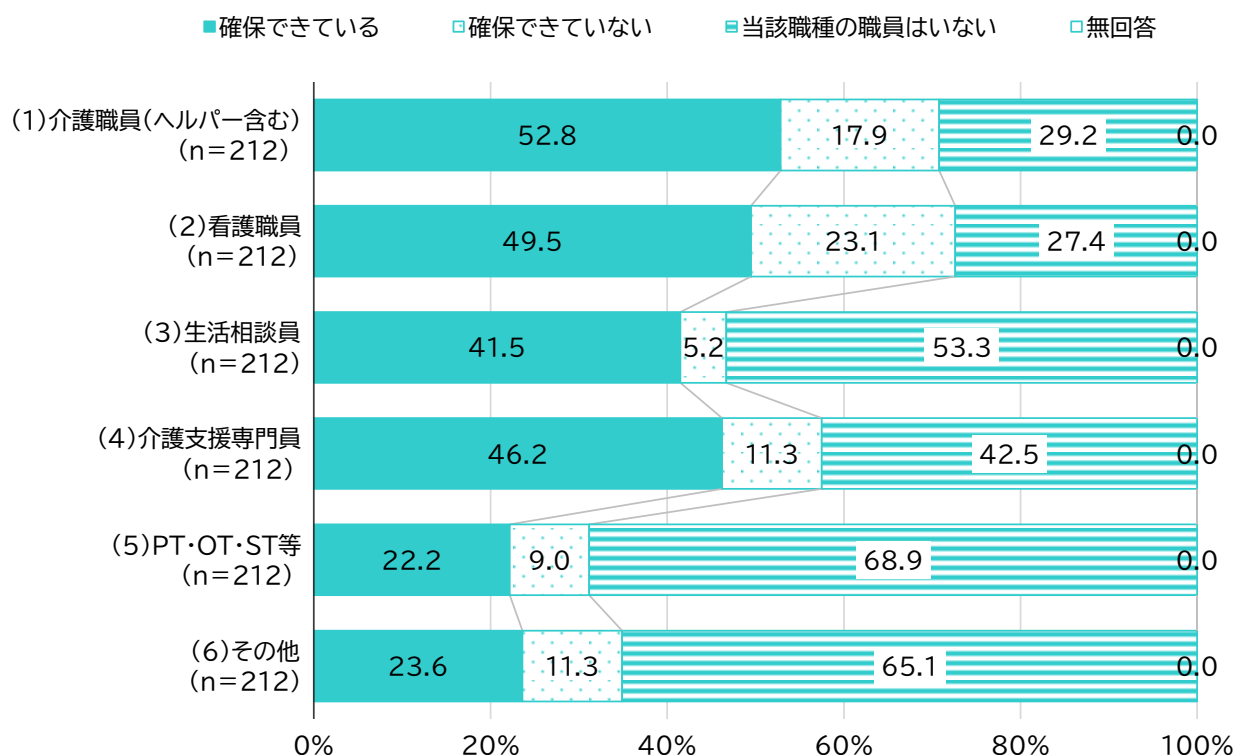
3. 人材確保の状況

① 職種別介護人材の確保状況

「確保できている」の割合が高いのは、「(1) 介護職員（ヘルパー含む）」の52.8%で、次いで「(2) 看護職員」の49.5%、「(4) 介護支援専門員」の46.2%となっている。

【設問内容】

問7 貴事業所における職種別介護人材の確保状況は次のうちどれにあてはまりますか。(それぞれの職種で1つずつ)



※「確保できている」＝「確保できている」＋「概ね確保できている」

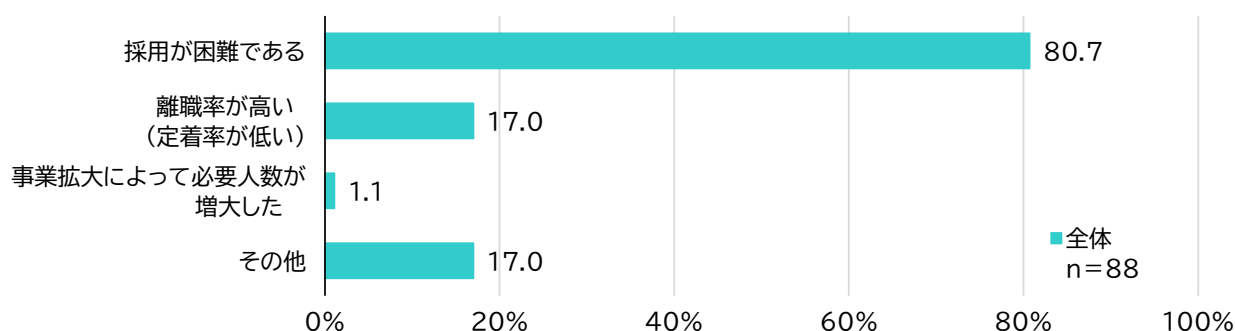
「確保できていない」＝「あまり確保できていない」＋「確保できていない」

②-1 「確保できていない」理由

「採用が困難である」が80.7%と最も高く、次いで「離職率が高い（定着率が低い）」「その他」が17.0%、「事業拡大によって必要人数が増大した」が1.1%の順となっている。

【設問内容】

問7-1 問7において「あまり確保できていない」「確保できていない」を選んだ理由は次のうちどれにあてはまりますか。(複数回答)

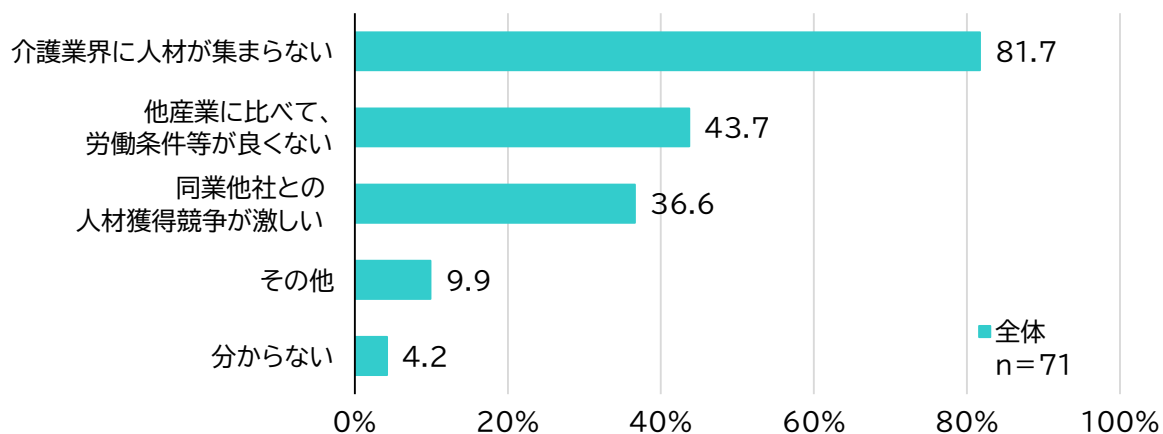


②-2 「採用が困難である」理由

「介護業界に人材が集まらない」が81.7%と最も高く、次いで「他産業に比べて、労働条件等が良くない」が43.7%、「同業他社との人材獲得競争が激しい」が36.6%の順となっている。

【設問内容】

問7-2 問7-1において「採用が困難である」を選んだ事業所にお尋ねします。その原因は何にあるとお考えですか。(複数回答)

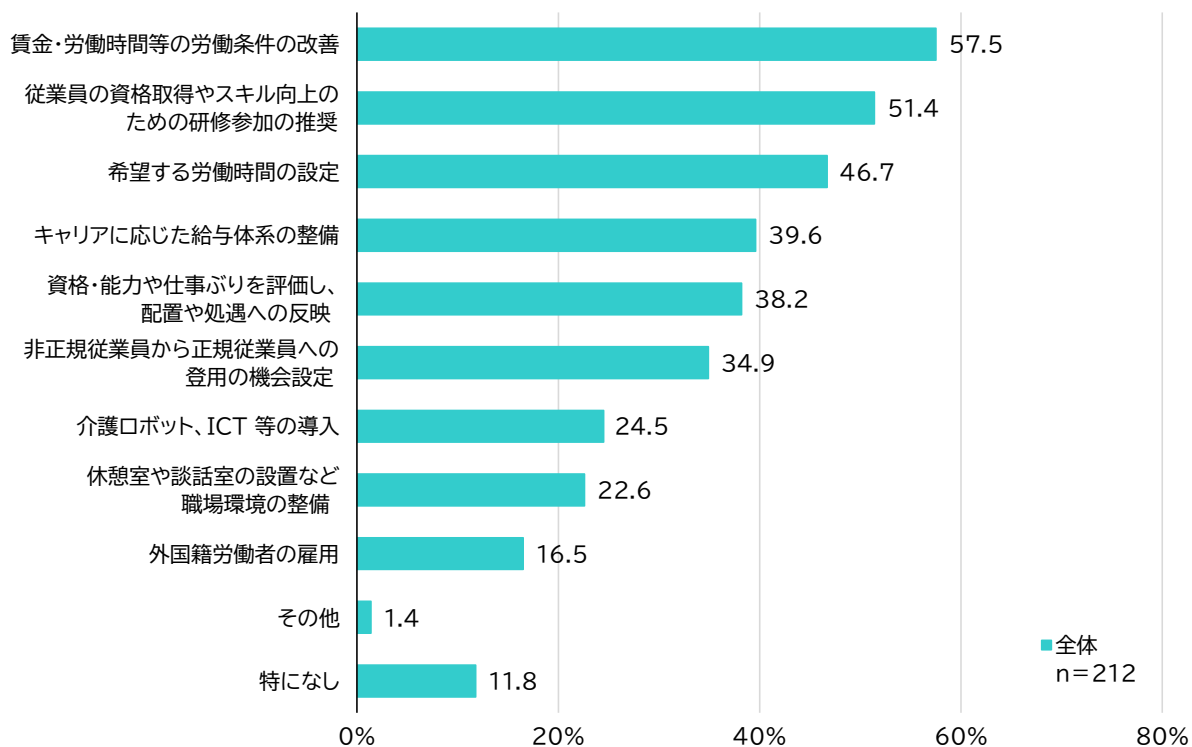


4. 人材定着のための取り組み

「賃金・労働時間等の労働条件の改善」が57.5%と最も高く、次いで「従業員の資格取得やスキル向上のための研修参加の推奨」が51.4%、「希望する労働時間の設定」が46.7%の順となっている。

【設問内容】

問10 人材を定着させるために取り組んでいることは何ですか。(複数回答)



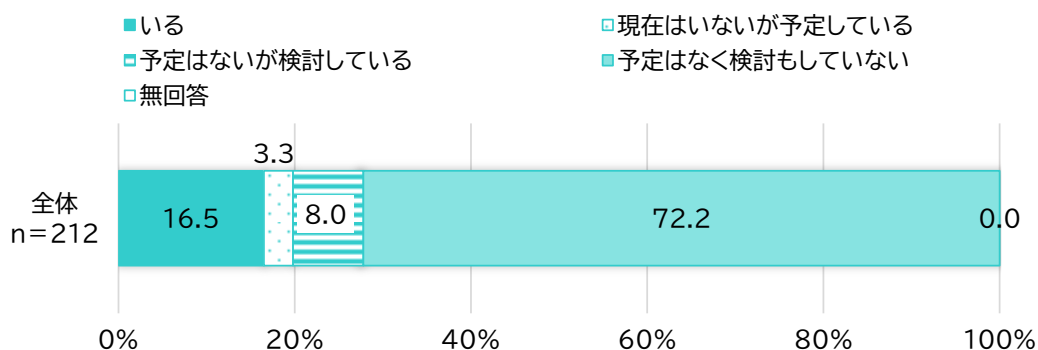
5. 外国籍労働者について

① 外国籍労働者の有無

「予定はなく検討もしていない」が72.2%と最も高く、次いで「いる」が16.5%、「予定はないが検討している」が8.0%の順となっている。

【設問内容】

問13 貴事業所には、介護の仕事をしている外国籍労働者はいますか。

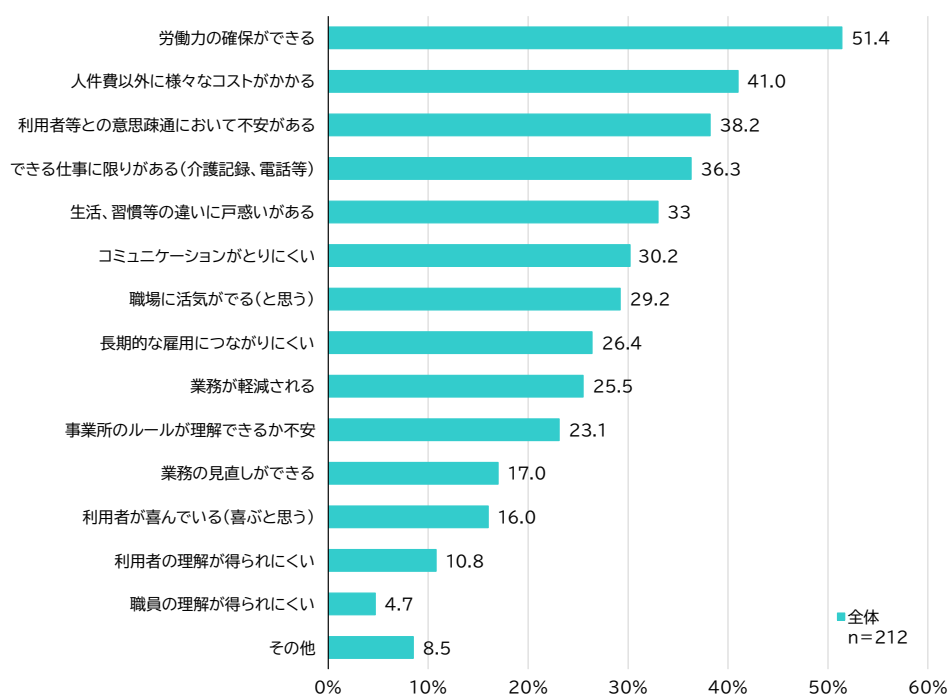


② 外国籍労働者の活用に対する考え方

「労働力の確保ができる」が51.4%と最も高く、次いで「人件費以外に様々なコストがかかる」が41.0%、「利用者等との意思疎通において不安がある」が38.2%の順となっている。

【設問内容】

問12 外国籍労働者の活用について、どのように思われますか。(複数回答)



6. 介護分野における生産性向上の取り組み

「活用している」の割合が高いのは、「(2) ICT等テクノロジーの導入について」の44.8%で、次いで「(1) 介護ロボット・センサーの活用について」の29.2%、「(3) 業務改善（生産性向上支援ツール等）について」の24.1%となっている。

【設問内容】

問14 今後も高齢化に伴い介護サービスの需要は高まる反面、少子化にともなう人材確保は課題であります。国が推奨している下記の対策等について現在の状況に該当するものを選んでください。

